

## 完了報告書（平成 22 年度）

提出者 浅井 歩

提出年月日 平成 23 年 3 月 15 日

### 【プロジェクト名】

和文

子育て中の親を対象とするアウトリーチ活動のニーズ調査

英文

Research on the needs of public outreach activities for child-raising families

### 【メンバー構成】

研究代表者 浅井 歩

メンバー 磯部洋明、永田伸一、羽田裕子

### 【ねらいと目的】（600 字程度）

我々は「子育て中の親」を対象とする自然科学に関する講演会を複数回開催することで、研究者側および地域における子育て中の親のニーズ調査を行うことを目的としている。科学研究分野では広く広報普及活動(アウトリーチ)が行われている。しかし、その対象は「子ども」と「科学にもともと興味がある人」であることが多く、若者や働き盛り世代へのアピールが不足している。一方、本研究課題が対象とする「子育て中の親」は、子連れで参加できる社会的活動が少ないという状況にある。まして高度な知的活動に触れる機会は著しく乏しい。

子育て中の親を対象とする講演会は、これまでアウトリーチの対象として弱かった世代(親)への直接のアプローチである。また、子育て中のために社会から孤立しがちな親に対して、大学の知的活動に触れるという他にない「居場所、時間の過ごし方」を提供することができる。さらに、講演者には、育休中の研究者を積極的に活用することを検討している。これにより、その研究者にとっても、社会や研究とのつながりを維持する一つの方法を提供できる。

研究ユニットでは、このような講演会を、形態を少しずつ変えながら複数回開催する。またその際、研究者および地域のニーズ調査を行い、これにより将来的に京都大学の定常的な事業に発展させてゆくための問題点と最適な方法を探る。

### 【活動の記録】

子育て中の親向け講演会を、以下のように複数回開催することで、参加者や研究者のニーズ調査を行った。

\* 子育て中のお母さん・お父さん向け天文講演会の開催(日本天文学会・全国同時七夕講演会 2010 の一環)

2010 年 7 月 6 日(火)・京都大学女性研究者支援センター

講演タイトル:「太陽と宇宙の天気予報」、講師:浅井歩(京大・宇宙総合学研究ユニット・特定助教)

\* 子育て中のお母さん・お父さん向け講演会の開催

2010 年 8 月 25 日(水)・京都大学女性研究者支援センター

講演タイトル:「生き物のつながり」、講師:水町衣里(京大・iCeMS・研究員)

\* コズミックカレッジ x 子育て中のお母さん・お父さん向け講演会

2010 年 11 月 10 日(水)・芝蘭会館別館

講演タイトル:「あかつき、金星へ」、講師:大月祥子(宇宙航空研究開発機構・研究員)

\* 子育て中のお母さん・お父さん向け講演会(京都「はやぶさ」シンポジウム)

2011 年 2 月 6 日(日)・京都大学百周年記念館

講演 1:「はやぶさ探査機がたどって来た道とこれから先の道」山川 宏(京大・生存圏研究所・教授)

講演 2:「はやぶさがひらく小天体の科学」藤原 顕(元宇宙航空研究開発機構・教授)

**【成果の概要】**（800 字程度）

本研究ユニットでは、アウトリーチが不足しているとされる「子育て中の親」をターゲットとした講演会を、今年度 4 回開催した(平成 22 年 7 月 6 日、8 月 25 日、11 月 10 日、平成 23 年 2 月 6 日)。毎回形態を多少変更し複数回開催することで、研究者と地域の両方のニーズに即したアウトリーチ活動の在り方を探った。講演会の参加者は延べ 16 名(10 家族)であった。講演会の話題は天文学を中心に自然科学研究の最前線に関するものであった。講演会の内容は、7 月 7 日の京都新聞や、8 月 19 日の京都新聞紙面上で紹介された。託児環境を整えることで、参加者は講演に専念でき知的好奇心に応えることができた。参加者のアンケートからも高い関心や満足度がうかがえ、このような講演会の需要が高いことが確認できた。また参加者の多くは、今後も同様の講演会の開催を望んでいること、講演内容は自然科学を中心に研究の最前線的话题を広く期待していることなどもわかった。参加者は近隣からが多数であったが、奈良県・兵庫県から来られた方もあり、関心の高さがうかがえた。

ただし、講演者に育休中の研究者を積極的に活用することを当初検討していたが、この点については今年度中に実施に至らなかった。育休中の研究者の活用は、その研究者にとって社会や研究とのつながりを維持する一つの方法を提供でき、育休中でない研究者にとっては、このような活動に参加することで男女共同参画への意識を高めることが期待される。将来の発展として、育休中の研究者の積極的活用をぜひ実現したいと考える。また、広報活動に課題が残った。今後同様の活動を展開する上では、関係機関やマスコミとの連携をより一層深めて行く必要があると実感した。

**【通信欄】**

(研究代表者記入)

プロジェクト	<input type="checkbox"/> 次世代	<input type="checkbox"/> 次世代ユニット	<input checked="" type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究
経費	予算額	230 (千円)	実績額